



平成21年8月28日  
内閣府（防災担当）

## 平成21年防災功労者防災担当大臣表彰式について

標記式典を下記のとおり執り行うのでお知らせします。

### 記

- 日 時 平成21年9月3日（木）  
13時30分～
- 場 所 内閣府本府講堂
- 出席者 防災担当大臣 ほか

\* 式典内容はカメラ撮り可

#### 【本件問い合わせ先】

内閣府政策統括官（防災担当）付  
参事官（総括担当）付 井上、宮崎、設楽  
電話：03-3501-5408（直） FAX：03-3503-5690

## 平成21年防災功労者防災担当大臣表彰式

- 1 日 時 平成21年9月3日(木)  
13:30 ~ 14:00
- 2 場 所 内閣府地下講堂等
- 3 表彰式次第
- (開 式) 13:30
- (1) 防災担当大臣あいさつ
- (2) 防災担当大臣表彰状授与
- (3) 受賞者代表謝辞
- (閉 式) 13:50
- 4 記念写真撮影 13:55
- (終 了) 14:00

平成21年防災功労者防災担当大臣表彰受賞者名簿

○ 個人

〔防災体制の整備〕

|         |        |
|---------|--------|
| 新 谷 融   | (北海道)  |
| 中 林 一 樹 | (神奈川県) |
| 加 藤 明   | (静岡県)  |
| 野 口 宏   | (愛知県)  |
| 高 田 至 郎 | (兵庫県)  |
| 神 谷 研 二 | (広島県)  |
| 四 宮 治 義 | (徳島県)  |

○ 団 体

〔災害時の防災活動〕

|                  |       |
|------------------|-------|
| 社団法人岩手県建設業協会一関支部 | (岩手県) |
| 栗原市地区栗駒赤十字奉仕団    | (宮城県) |

〔防災体制の整備〕

|              |       |
|--------------|-------|
| 水谷東2丁目防災会    | (埼玉県) |
| 東伊豆町大川区自主防災会 | (静岡県) |
| 曾根校区市民防災会    | (福岡県) |

〔防災思想の普及〕

|                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク | (新潟県) |
| 池上校区第2町内自主防災クラブ             | (熊本県) |
| 株式会社いとまんコミュニティエフエム放送        | (沖縄県) |

以上 7個人 8団体

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

|           |   |
|-----------|---|
| 推 薦 者     | 内 閣 府   |
| 氏名 (年齢)   | あ ら や と お る<br>新 谷 融 (68歳)  |
| 住 所       | 北海道札幌市  |
| 職 業       | 特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構理事   |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、砂防学、林学の第一人者として、特に火山砂防や流域土砂動態に関する研究等において優れた業績を残しており、防災行政へ有用な提言を行うなど、その活動は非常に幅広いものである。</p> <p>また、砂防や地すべりの分野では、砂防学会会長、地すべり学会北海道支部長などの要職を務めるなど、学会活動においても同氏の功績は極めて大きく、本分野の進歩に大きく貢献した。</p> <p>さらに、「富士山ハザードマップ検討委員会」副委員長、「火山情報等に対応した火山防災対策検討会」委員、中央防災会議「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会」専門委員、北海道防災会議専門委員会委員などを歴任し、火山砂防の専門家として幅広い知見と深い考察に裏打ちされた数多くの提言を行い、防災体制の整備に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

|           |  |
|-----------|--|
| 推 薦 者     | 内 閣 府  |
| 氏名 (年齢)   | なか ばやし いつ き<br>中 林 一 樹 (62歳)   |
| 住 所       | 神奈川県大和市  |
| 職 業       | 首都大学東京教授   |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は都市防災学、都市計画学、まちづくり論の第一人者として、特に災害予防と復興の都市づくり・まちづくりに関する研究等において優れた業績を残しており、防災行政への有用な提言を行うなど、その活動は非常に幅広いものである。</p> <p>研究活動においては、首都直下地震と防災計画論や密集市街地の防災まちづくり論、震災復興計画論など都市防災やまちづくりについて幅広い側面から分析を行っており、その成果は学術的にも極めてレベルの高いものである。</p> <p>また、都市計画学会理事、地域安全学会理事などの要職を務めるなど、学会活動においても同氏の功績は極めて大きく、本分野の進歩に大きく貢献した。</p> <p>さらに、中央防災会議「首都直下地震避難対策等専門調査会」座長をはじめ、中央防災会議「首都直下地震対策専門調査会」専門委員、東京都火災予防審議会地震部会小委員会委員長などを歴任し、特に東京の震災対策と防災まちづくりに関する幅広い知見と、深い考察に裏打ちされた提言を数多く行うなど、防災体制の整備に多大な貢献をした。</p> |

## 功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

|           |  |
|-----------|--|
| 推 薦 者     | 静 岡 県 知 事  |
| 氏 名 (年 齢) | か とう あきら<br>加 藤 明 (76歳)  |
| 住 所       | 静岡県熱海市   |
| 職 業       | 無職   |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、地元の自主防災会会長を10年以上にわたり務め、災害時要援護者台帳の整備・更新など、日頃から防災活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>特に、周辺自主防災会と連携した帰宅困難者に対する食料備蓄等の防災対策の実施や、企業と協働したアマチュア無線による情報伝達方法の確立など、自主防災組織の活性化や地域の特性を踏まえた防災体制の強化に努めている。</p> <p>また、熱海市自主防災会連合会副会長として、医師会等関係機関との連携、救護所・避難所のマニュアル作成や訓練計画の作成などに尽力し、地域防災力の向上に貢献している。</p> <p>さらに、平成18年度から静岡県自主防災活動推進委員会委員（現静岡県地域防災活動推進委員会委員）として、自主防災活動に関する広報、啓発、支援を精力的に行い、静岡県の防災力強化に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

|           |   |
|-----------|---|
| 推 薦 者     | 愛 知 県 知 事   |
| 氏 名 (年 齢) | の ぐ ち ひ ろ し<br>野 口 宏 (66歳)  |
| 住 所       | 愛知県名古屋市   |
| 職 業       | 社団法人愛知県医師会 愛知県救急医療情報センター統括センター長<br>愛知医科大学名誉教授   |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、愛知県の救急災害医療の中心的な存在であり、愛知県災害医療対策協議会及び愛知県DMAT運営協議会の座長などとして、全国に先駆けて数多くの災害医療の取り組みを行い、災害医療の先進地域である現在の体制の構築に貢献した。同氏は、災害時における消防と医療の連携の重要性を早くから提唱し、座長として策定した「救助・救急医療活動連携マニュアル」は、全国のモデル的なものとして、各都道府県に紹介されている。</p> <p>また、愛知医科大学病院高度救命救急センターのセンター長として、ドクターヘリ運航の実現を始めとした高度な救命救急医療を推進するとともに、平成4年4月に名古屋市消防局救急業務指導医、平成4年9月より救急救命士国家試験委員会委員などを歴任し、救急救命士の養成に尽力するほか愛知万博の際には、「大規模災害時医療救護マニュアルー愛知万博に備えてー」を作成し、災害医療に対して関係機関が一丸となって取り組む体制を整備するなど、救急災害医療体制の整備に大きく貢献した。</p> |

## 功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

|           |   |
|-----------|---|
| 推 薦 者     | 兵 庫 県 知 事   |
| 氏 名 (年 齢) | た か だ し ろ う<br>高 田 至 郎 (65歳)  |
| 住 所       | 兵庫県神戸市  |
| 職 業       | 株式会社ライフライン工学研究所所長   |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、地震工学の専門家として、昭和55年からの兵庫県防災会議専門委員、県地域防災計画の作成等、県の防災体制の推進に尽力し、平成3年から現在まで兵庫県防災会議地震災害対策計画専門委員会副委員長などを務め、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた県地域防災計画の抜本的修正など、地震災害等における危機管理の専門的見地からの助言を行い、兵庫県の防災体制の推進に尽力している。</p> <p>また、地震被害想定 の 指 導、山崎断層帯や六甲・淡路島断層帯での活断層調査における指導・助言のほか、震災から10年の取り組みを検証する「復興10年総括検証・提言事業」では、まちづくり分野の検証を担当し、災害に強いライフラインの整備について有益な提言を行うなど、兵庫県の防災体制の構築等に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

個人 [原子力防災]

|           |  |
|-----------|--|
| 推 薦 者     | 内 閣 府  |
| 氏名 (年齢)   | かみ や けん じ<br>神 谷 研 二 (58歳)   |
| 住 所       | 広島県広島市   |
| 職 業       | 国立大学法人広島大学原爆放射線医科学研究所長   |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、放射線生物学の専門家として、その豊富な知見と経験を活かして、平成13年7月から現在まで、原子力安全委員会に設置された原子力施設等防災専門部会被ばく医療分科会の専門委員を務めるとともに、平成19年7月から平成20年4月まで、同分科会の下部組織として設置された緊急被ばく医療の在り方に関する検討会の専門委員として、「緊急被ばく医療の在り方について」の報告書の取りまとめに尽力するなど、数々の報告書の取りまとめに際し、多大な貢献をした。</p> <p>さらに、平成16年11月から平成20年1月まで放射線防護専門部会の専門委員として「環境放射線モニタリング指針」の策定に貢献するなど、原子力防災対策、環境放射線モニタリングの整備等について多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

|           |   |
|-----------|---|
| 推 薦 者     | 徳 島 県 知 事   |
| 氏 名 (年 齢) | しのみや はる よし<br>四 宮 治 義 (79歳)   |
| 住 所       | 徳島県海部郡美波町   |
| 職 業       | 無職  |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、自主防災組織「西の地防災きずな会」を結成し、防災思想の普及や自主防災対策の必要性等について地域全体で考える自主防災学習会の開催や地区の高齢者世帯を中心に家具の転倒防止プロジェクトを実施、避難まつりと呼ばれる津波避難訓練の実施など、自主防災活動を展開している。その実績は他の地区の模範となっており、自主防災組織の牽引役として尽力した。</p> <p>また、独身男女が防災訓練を通じて出会いを探すというイベント「ぼうさいAMOUR」の企画や、地域の余剰資源である間伐材と竹を使い地域の力で仮設住宅（バンブーシェルター）を作るノウハウを提案するなど、地域の防災体制の整備に多大な貢献をした。</p> |

## 功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

|           |   |
|-----------|---|
| 推 薦 者     | 岩 手 県 知 事   |
| 名 称       | 社団法人岩手県建設業協会一関支部  |
| 所 在 地     | 岩手県一関市  |
| 代 表 者     | う べ てい こう<br>支 部 長 宇 部 貞 宏  |
| 功 績 の 概 要 | <p>同支部は、平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震において、発生直後、独自の被災地パトロールや被災調査を実施し、国道342号線が土砂崩れにより通行不能であるとともに地滑りに伴う河道閉塞を確認した。市災害対策本部ではその対応に苦慮していたが、同支部は独自の被災調査を行い、河床に重機搬入の迂回路の開設が可能であることをつきとめ、24時間態勢で迂回路を開設した。</p> <p>これにより仮排水路を早期に完成させ、二次災害防止にも大きく寄与したほか、復旧復興工事の早期着工、一部住民の避難勧告の早期解除等に多大な貢献をした。</p> |

## 功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

|           |  |
|-----------|--|
| 推 薦 者     | 日 本 赤 十 字 社  |
| 名 称       | 栗原市地区栗駒赤十字奉仕団  |
| 所 在 地     | 宮城県栗原市   |
| 代 表 者     | こ ば や し ふ さ<br>委 員 長 小 林 ふ さ   |
| 功 績 の 概 要 | <p>同奉仕団は、平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震の際、市からの要請を受け、他県から来た応援救援活動者に対して炊き出し活動を実施したほか、自衛隊や他の奉仕団と連携し一ヵ月余にわたり給食支援活動を展開した。</p> <p>また、被災した一人暮らし高齢者等に対して避難所への入所説得や、避難所での心のケアは、高齢避難者に安堵感を与えるなど、行政だけではできなかったであろう被災者本位の活動を行い、災害時の防災活動に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

|           |   |
|-----------|---|
| 推 薦 者     | 埼 玉 県 知 事   |
| 名 称       | 水谷東2丁目防災会   |
| 所 在 地     | 埼玉県富士見市   |
| 代 表 者     | お が た た だ お<br>会 長 尾 形 忠 男  |
| 功 績 の 概 要 | <p>同防災会は、災害時の人材確保のため看護師等の有資格者や各種技能・技術を持っている人の登録制度をはじめ、防災会組織を支え、その活動を継続して防災力を向上させるための「特別防災隊」を設置している。特別防災隊では、ノウハウを蓄積し、隊独自の研修や訓練を通して地域内の火災に対する初期消火活動や河川増水時の水害警戒活動などの災害対応に迅速な機動力を発揮して防災活動の推進力となっている。</p> <p>また、合同防災訓練や防犯パトロール活動など、水谷東地域全体の安心安全なまちづくりに積極的に取り組み、特に、災害時要援護者支援活動では、水谷東地域内で率先して名簿登録した要援護者の避難支援プラン（個別計画）を訓練の中で検証するなど、地域ぐるみで安心安全なまちづくりをすすめるネットワークの構築に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

|           |   |
|-----------|---|
| 推 薦 者     | 静 岡 県 知 事   |
| 名 称       | 東伊豆町大川区自主防災会  |
| 所 在 地     | 静岡県賀茂郡東伊豆町  |
| 代 表 者     | やま だ みのる<br>会 長 山 田 稔   |
| 功 績 の 概 要 | <p>同防災会は、地域の地理的特性や、住民生活形態など実情を考慮しながら、町委嘱防災委員、地区消防団、住民、婦人団体等、地区内の関係機関と連携し、自主防災活動に取り組んでいる。</p> <p>地域内に医療施設が無いことから、災害時の応急救急に対応できるよう、住民の中から看護師資格を持っている住民の協力を得て救護班を作ったり、隣市の八幡野漁師会と海上輸送の協定の締結、ヘリポートの確保など、地域の特性(孤立化)を考慮した体制の整備に力を入れ、地域と一体となって防災活動に取り組んでいる。その活動は、自主防のスローガンである自助、共助を実践しているものであり、他の自主防災組織の模範となっており、地域の防災力向上に多大な貢献をした。</p> |

## 功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

|           |   |
|-----------|---|
| 推 薦 者     | 福 岡 県 知 事   |
| 名 称       | 曾根校区市民防災会   |
| 所 在 地     | 福岡県北九州市   |
| 代 表 者     | にし だ まさる<br>会 長 西 田 勝   |
| 功 績 の 概 要 | <p>同防災会は、平成9年7月の曾根校区市民防災会発足から、自主防災活動に積極的に取り組んでおり、平成17年には、阪神・淡路大震災から10年を迎えたことを契機に、地域と行政の連携強化を目的に、区役所・消防・警察等関係機関との合同防災訓練を実施し、これ以降毎年実施している。</p> <p>また、年間を通じて防火パトロールや災害図上訓練の実施、地域の民生委員・福祉協力委員を活用した「災害時要援護者支援システム」の作成に取り組むなど、住民の自主防災意識は非常に高く、災害時に備えた地域防災力の向上へ多大な貢献をした。</p> |

## 功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

|           |  |
|-----------|--|
| 推 薦 者     | 全 国 社 会 福 祉 協 議 会  |
| 名 称       | 特定非営利活動法人<br>にいがた災害ボランティアネットワーク  |
| 所 在 地     | 新潟県三条市   |
| 代 表 者     | かわ せ かず とし<br>理 事 長 川 瀬 和 敏  |
| 功 績 の 概 要 | <p>同団体は、水害と地震の経験を生かし、日常的な防災・減災活動を行うとともに、実際の災害時には被災地に対して積極的な支援活動を行っている。</p> <p>新潟県内における雪害や中越沖地震のほか、台風や地震被害を受けた各地の被災地の災害ボランティアセンターに対しても災害ボランティアの活動資機材の貸与を行っている。</p> <p>また、中越地震及び中越沖地震に際しては、災害時の先遣隊及びコーディネーターの人材派遣など長期間にわたって対応したほか、能登半島地震、岩手・宮城内陸地震といった県外災害にも積極的派遣を行い、被災経験の無い地元関係者にそのノウハウを伝え続けている。</p> <p>さらに、被災地の教訓を蓄積するだけでなく、その後の県外の被災地支援で実際の被災地支援経験を積み重ねるなど、年々その活動は全国規模で拡大しており、災害ボランティア活動や、防災思想の普及に多大な貢献をした。</p> |

## 功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

|           |  |
|-----------|--|
| 推 薦 者     | 熊 本 県 知 事  |
| 名 称       | 池上校区第2町内自主防災クラブ  |
| 所 在 地     | 熊本県熊本市   |
| 代 表 者     | すぎたに あつ お<br>会 長 杉 谷 淳 夫   |
| 功 績 の 概 要 | <p>同クラブは、結成当時から年間活動計画に基づいて、関係各種の講習や講演会、各種災害訓練、研修会等へ多数の役員が参加するなど精力的な活動を続けている。</p> <p>同地区は、井芹川と金峰山山系に挟まれた低地で、大雨の時は幾度となく浸水してきた地域でもある。水害の怖さを知る地域代表が団結し、いち早く自主防災クラブを発足させた草分け的存在である。</p> <p>入梅時期には独自の講習会を開き、危険箇所の巡回パトロールを実施するなど、地域住民に災害の怖さを訴え防災意識の高揚に努め、独自に災害を想定した防災及び避難訓練の実施するなど、地域全体の防災意識の向上に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

|           |   |
|-----------|---|
| 推 薦 者     | 沖 縄 県 知 事   |
| 名 称       | 株式会社いとまんコミュニティエフエム放送  |
| 所 在 地     | 沖縄県糸満市  |
| 代 表 者     | おお しろ つかさ<br>代表取締役 大 城 司  |
| 功 績 の 概 要 | <p>同社は、開局当初から、糸満市消防本部と毎朝中継を結び、週5日間消防職員の生放送による防災や防火等の話題を提供しており、毎年9月1日の防災の日、防災週間には特別番組枠を設けて放送時間内で繰り返し防災情報を提供している。</p> <p>さらに、月1回発行している地域情報新聞「FMたまん機関紙」のなかでも防災防火を取り上げ、市内8割の世帯に配布して、啓発活動を行うほか、防災意識向上のための音声教材を市内の自治会に配布するなど、平素から防災対策に積極的に取り組み、市民の防災意識の向上や防災思想の普及活動に多大な貢献をした。</p> |